

● 青果事業の売上高の構成

- ・青果事業全体の売上高は燻蒸上屋使用料、燻蒸料、青果施設賃貸料で構成され、全体として R4 売上高は R3 よりも約 140 万円の減額を見込む。内訳は以下の通り。

	単位	R3実績	R4計画	差額
青果事業 売上高	千円	313,880	312,443	-1,437
燻蒸上屋使用料	千円	51,106	53,048	1,942
取扱貨物量	C/T	(578万C/T)	(600万C/T)	(22万C/T)
燻蒸料	千円	26,398	23,019	-3,379
青果施設賃貸料	千円	236,376	236,376	0

〔燻蒸上屋使用料〕

- ・取扱貨物量に比例。R3 の取扱貨物量は 578 万 C/T に対し、R4 は 600C/T と想定したことから、燻蒸上屋使用料は約 200 万円の増額を見込む。

〔燻蒸料〕

- ・燻蒸料は、輸入青果物の植物検疫の結果、不合格となった輸入品に対して、輸入通関が認められるために行う消毒作業（燻蒸）に対する料金。燻蒸 1 回当たりの単価を倉の大きさや燻蒸方法により定め、燻蒸料を算出。
- ・R3 の燻蒸料は中国の台湾産パイナップルに対する輸入停止を受けて、堺青果センターへ燻蒸率の高いパイナップルの輸入が大幅に増加し、それに伴い近年に比べて燻蒸料も増加した。しかし、荷受業者へのヒアリングの結果、R3 に発生した台湾産パイナップルの特需は一時的なものと想定されることから、R4 は取扱量の減少に伴う燻蒸回数の減少など、全体として燻蒸料が減少する見込みであるため、R4 の燻蒸料は R3 に比べて約 340 万円の減額を見込む。

〔青果施設賃貸料〕

- ・昨年度と同額を想定（±0 円）

● 堺青果センターにおける過去 5 年間の品目別取扱量及び R4 取扱見込み

	2017 H29	2018 H30	2019 R1	2020 R2	2021 R3	2022 R4
シトラス類	2,907,877	2,810,639	2,922,515	2,296,820	2,404,139	2,550,000
グレープフルーツ	863,797	901,224	793,615	681,406	679,279	700,000
レモン	857,923	901,497	972,157	650,329	729,961	800,000
オレンジ類	1,186,157	1,007,918	1,156,743	965,085	994,899	1,050,000
バナナ	891,435	770,709	735,484	807,193	742,968	770,000
その他果実	1,093,574	864,627	805,216	706,441	708,025	
パイナップル	4,372	4,176	8,307	26,574	183,455	730,000
その他	1,089,202	860,451	796,909	679,867	524,570	
野菜類	1,413,143	1,558,692	1,385,230	1,325,348	1,297,133	1,300,000
花卉類	558,364	597,347	547,879	517,054	511,148	520,000
その他(国内品等)	231,317	154,846	183,249	139,131	120,355	130,000
合計	7,095,710	6,756,860	6,579,573	5,791,987	5,783,768	6,000,000

単位 C/T

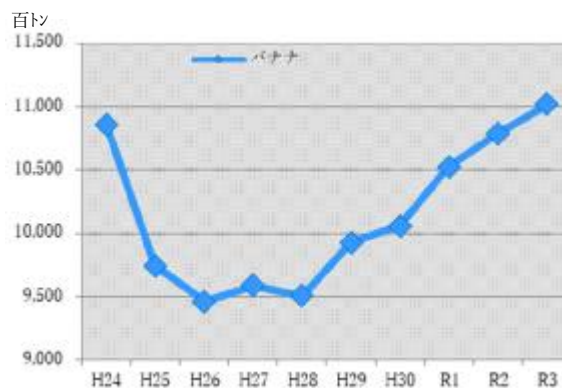
- ・全国トレンドでは輸入青果物の取扱量（特にシトラス類）は長期的に減少傾向であるが、堺青果センターの **R4** 取扱量は、外食産業需要の回復を見込むとともに、荷受業者と連携した集荷活動や荷主獲得に向けた施設改良などを行うことにより取扱貨物量の増加をめざし、**R3** 比で増量を見込む

・・・**R3** : 578 万 C/T ⇒ **R4** : 600 万 C/T

●輸入青果物の全国トレンド

- ・品目にもよるが、堺青果センターの主要品種であるシトラス類は全体的に右肩下がり。

過去10年間の品目別トレンド（全国）は以下の通り。



(財務省貿易統計より)

〔 Gフルーツ : ↓ (下降) オレンジ : ↓ (下降)
レモン : → (横ばい) バナナ : ↑ (上昇) 〕